

平成 28 年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業「どさんこアウトメディアプロジェクト」
ジュニアサポーター養成事業

実施者	北海道立青少年体験活動支援施設 ネイパル深川																
ねらい	高校生のコミュニケーション能力向上プログラムの一環として、電子メディアの利用に関する学習機会を提供し、節度を持った利用の意識を高めるとともに、周囲にも活動を広めることを推奨するなど自ら主体的に取組を推進する担い手（サポーター）を養成する。																
実施日	平成 28 年 10 月 16 日（日）																
参加者	高校生 14 名																
備考	講師 多田豊子氏（NTTdocomo ケータイ安全教室インストラクター）																
日程	日時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	10/15 （土）	★受付時間 13:00～13:30						受 付	開 会 式	相手に「伝える」「表現する」 【講義・演習】	夕食	コミュニケー ション 基本テクニック 【講義・演習】	入浴	自主学習 就寝			
10/16 （日）	起床	朝食	清掃	点検	・昨日の 振り返り ・次時に 向けて	ネットと 上手な 付き合い方 【講義・演習】	閉 会 式	★解散 12:00									
実施内容	<p>○ 本事業は、中高生のコミュニケーション能力の向上を目指す主催事業「一歩近づくコミュニケーション術」のプログラムの1つとして実施し、ネット利用に関する正しい知識を学ぶ機会や利用方法を考える機会を提供した。</p> <p>○ 講演に先立つプログラムでは、小中高生のインターネット・携帯電話事情について、内閣府調査の携帯電話利用率、デジタル機器利用状況をグラフから読み取り、小学生では約5割、中学生では約6割、そして高校生ではほぼ全員が所有していることを確認した。実際に今回の事業参加者も全員が所有している状況であった。</p> <p>○ また、参加者は、子どもたちを取り巻くネット環境において、デジタル機器の過度な利用がどのような弊害をもたらしているか、『どさんこKYTシート』を用いて意見交流を行い、「長時間の使用で視力が低下する」「ながらスマホは重大事故につながる」といった意見が出された。</p> <p>○ 講演では、中高生が画面上の言葉だけで意思疎通を図る際のトラブルの例が、ミニドラマやアニメーションで具体的に紹介された。SNS等の利用については、参加者の意見もくみ取りながら、所有者の責任としてフィルタリングの設定を必ず行い、加害者にも被害者にもならないようにと注意を呼びかけた。</p> <p>○ インターネットや携帯電話が進歩しても、一番信頼できるコミュニケーションは、「直接、会って顔を見て話すこと」と締めくくり、本事業を修了した。</p>																
感想等	<p>参加者の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットの便利さと怖さを知ることができた。 ・ネットには多くの危険があることを学ぶことができた。 ・SNSをよく使うのでトラブルには気をつけたい。 ・ネット上の文字だけでは伝わらないことなど、とても参考になった。 																
成果	<p>(1) 携帯電話やネットの危険性を認識させることができた。</p> <p>(2) フィルタリングの重要性を知らせ、その設定についての意識を高めることができた。</p> <p>(3) どさんこKYTシートの活用により、携帯電話等を慎重に利用しようとする意識を芽生えさせる活動ができた。</p>																
改善点等	<p>(1) 各学校で行っている携帯安全教室との内容の重複を避けること。</p> <p>(2) 自ら主体的に取組を推進する担い手（サポーター）を養成するためのプログラムの工夫が必要。</p>																

